

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	通常砂防事業				
地区名	上六沢				
事業箇所	新城市四谷				
事業のあらまし	<p>上六沢は、愛知県新城市四谷に位置する土石流危険渓流である。 地質は第三・四紀層の堆積岩で風化や浸食が進み、崩壊や渓岸侵食が顕著に見られ、河床堆積物が多く河床勾配も急(平均1/2.3)であり、今後土砂生産が著しいと想定される。 現在、流域内には2基の砂防堰堤の他、10基の治山堰堤が設置されているものの、今後の降雨により更なる土砂流出が予想されることから、砂防堰堤2基(既設改良;不透過型→透過型1基、新設;不透過型1基)を整備する全体計画を策定し、土砂災害対策を進めるものである。</p>				
事業目標	<p>【達成(主要)目標】 ・ 人家9戸、市道320mを土砂災害から保護することを目標とする。 【副次目標】(必要に応じて記載する) ・ なし</p>				
計画変更の推移		事業採択時 (平成21年度)	再評価時 (平成26年度)	変動要因の分析	
	事業期間	H21～H25	H21～H29	・ 用地買収の難航	
	事業費(億円)	3.5	3.5		
	経費内訳	工事費	2.8		2.8
		用補費	0.2		0.3
その他		0.5	0.4		
事業内容	砂防堰堤2基	砂防堰堤2基			
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】 ・ 保全対象を土石流による土砂災害から保護する必要がある。 【再評価時の状況】 ・ 保全対象・土砂流出の状況等に変化は無い。 【変動要因の分析】 ・ なし。</p>			
	判定	B	<p>A: 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B: 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C: 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】 ・ 事業着手時からその必要性について変化はないため。</p>		

②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	【事業計画及び実績】										
			H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
	工種区分	調査・設計	←						→			
		用地補償							↔			
		工事										
		堰堤工							←	→		
	事業費(億円)	計画			3.5				3.1			
		実績			0.4							
			【進捗率】									
			これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況						
		計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】						
		延長(km)	—	—	—	—	—					
		事業費(億円)	3.5	0.4	11.4%	3.5	11.4%					
		工事費	2.8	0.0	0.0%	2.8	0.0%					
		用補費	0.2	0.0	0.0%	0.3	0.0%					
		その他	0.5	0.4	80.0%	0.4	100.0%					
		【施工済みの内容】										
		・無し										
	2) 未着手又は長期化の理由	・砂防施設計画用地において、事業反対者がおり、現在も継続して買収交渉をしている。所有地は事業用地も含め相続手続きが未了であり、対応に苦慮していたが相続手続きに目処が立ちつつある。										
	3) 今後の事業進捗の見込み	【阻害要因】 ・用地整理の難航。 【今後の見込み】 ・用地整理が来年度概ね完了する見込である。										
	判定	B	A： 事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。 B： 多少の阻害要因があるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 C： 阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。									
			【理由】 ・用地整理に難航していたが、来年度ほぼ整理が完了する予定であり、今後は用地取得及び工事着工ができると判断し、計画通りの完成が見込まれるため。									
III 対応方針												
	継続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。										
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容												
■対象（事業完了後5年目） □対象外												
【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】												
・該当なし。												
【主な評価内容】												
・砂防えん堤や保全対象の状況から、事業効果を確認する。												